

## シンポジウム 森林が危機に瀕している！ ～ニホンジカによる森林被害について考える～

2月16日（日曜日）三重県四日市市の本町プラザにおいて、ニホンジカによる森林被害の現状を広く県民に認識していただくとともに、森林を健全な状態に維持することの重要性を理解していただくことを目的に、三重県と（独）森林総合研究所関西支所の共催による本シンポジウムが開催され、三重森林管理署も参加しました。

基調講演として、（独）森林総合研究所関西支所の高橋裕史氏から「ニホンジカの個体数増加と生息環境の変化」と題して、森林への影響が大きいとされるニホンジカの生物学的な特性と、シカによってもたらされる影響、他地域や歴史的経緯について紹介し、今後の人とシカとの関係について講演されました。

その後、「ニホンジカが森林植生を衰退させる！～大杉谷国有林の被害実態と対策方法～」と題して三重森林管理署の澤山秀尚署長が、「ニホンジカが森林の再生を遅らせる！～人工林伐採跡地における広葉樹の天然更新～」と題して三重県林業研究所の福本浩士氏が、「ニホンジカが生物の多様性を変化させる！～下層植生を利用する昆虫類に注目して～」と題して名古屋大学大学院の片桐奈々氏からそれぞれ報告がありました。

当日は、県民を中心に約120名の参加があり、熱心に講演を聴講されるとともに講演後にも質問される方もおりました。

